逆の立場

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
逆の立場

【Ｎコード】
Ｎ９８４７Ａ

【作者名】
ユーリ

【あらすじ】
黒の組織が壊滅し、しばらくたった後の話。もし、工藤新一と宮野志保の立場が、まったく逆であったのならどうなったのか・・・？これは、そんなお話。

ＡＣＴ０１：新一の場合・１

工藤新一サイド

オレは工藤新一。

迷宮なしの高校生探偵だ。

ある日妙な毒薬を飲まされ、体が縮んだオレは、江戸川コナンという偽名を作り、小学生探偵として体を小さくした黒の組織を追い続け、見事壊滅させた。

その代償は大きかったが・・・。

オレは最近、気になる子ができた。

クラスメートで、一緒に住んでいる宮野志保だ。

住んでいるといっても、居候なのだが。

彼女の偽名は灰原哀。

黒の組織の仲間だったが、姉を殺された事で組織に反抗し、オレが飲まされたのと同じ薬を飲んで、組織から逃げ出してきた女の子だった。

最初は、敵という事でかなり彼女を警戒したが、今ではすっかり打ち解けた。

オレは今、なぜか彼女の事を考えていた。
もっと彼女の事を知りたい・・・
そう思いつつ、オレはソファーで横になった。

新一の夢の中・その１

ジン
「起きて、シェリー。起きなさい。」

新一
「シェリー・・・？」

オレは、首をかしげながら目を覚ました。

ジン
「やっと起きたのね、シェリー。」

新一
「シェリーって・・・誰？」

ジン
「はぁ？あなたに決まってるでしょ、シェリー！まだ１８歳なのに寝ぼけてるワケ？」

新一
「え？」

オレは、よーく自分の服装を見てみた。

確かに、スーツのような服を着て、白衣をしている。

その格好は、まさしくシェリーそのものだった。

新一
「（そうか、志保の事を知りたいって思ったから、オレ今志保の立場になってんだ・・・）ああゴメン、ジン。うたた寝してたみたいだ。」

ジン
「まったく・・・さっきからずっと呼びかけてたのよ？」

新一は納得すると、ジンに話しかけた。

シェリー
「それよりジン、話したい事があったんだろ？」

ジン
「ええ、あなたが新開発した『出来損ないの名探偵』の事なんだけど・・・この前１つ使ってしまったのよ・・・」

シェリー
「ＡＰＴＸ４８６９を！？何考えてんだよ、ジン！あれは試作段階の薬だから、試すなって言っただろ？」

新一は、ジンに向かってどなった。

ジン
「ご、ごめんなさいシェリー・・・取引現場を見られたから、使わざるを得なかったのよ・・・」

ジンは、あっさり新一に謝った。

シェリー
「そうか・・・で？その飲ませたヤツは、誰だ？」

ジン
「工藤志保っていう、女子高生探偵よ・・・今度、彼女の家に調査員を派遣するから、あなたも行ってきて・・・」

シェリー
「ああ・・・わかった。」

新一はそう言うと、研究室をあとにした。

ＡＣＴ０２：志保の場合・１

宮野志保サイド

私は宮野志保。

黒の組織の科学者だった女。

私は薬の研究をしていたんだけど、お姉ちゃんを殺された事で組織に反抗し、薬の研究を中断したの。

その結果ガス室に押し込められてしまった私は、どうせ殺されるならと毒薬『ＡＰＴＸ４８６９』を飲み、組織から逃げ出し、灰原哀という偽名を作った。

今私は、気になる子ができて、その子の家に住んでいる。

彼の名前は、工藤新一。

偽名は江戸川コナンで、迷宮なしの名探偵の男の子。

お姉ちゃんを助けてくれなかった事もあって、最初は彼と険悪なムードだった。

でも今じゃすっかり仲良くなっちゃって、ときおり彼をジッと見てる。

何度も助けられた事で、彼への恋心も芽生えてしまったの。
そして、黒の組織を壊滅させ、私を解放してくれた・・・。
私は彼の事を考えながら、リビングルームのドアを開けた。
もっと彼のそばにいたい。
かなわない恋であっても、彼の事をもっと知りたい・・・
そう思いながら、私は新一君が寝ているソファーへと近づいた。
志保
「新一君・・・寝ているの・・・？」
私は、新一君の隣に寝ころんだ。
新一
「どんな夢見てるの・・・？私にも教えて・・・」
そう言いながら、私は新一君にくっつき、そのまま眠りに落ちた。

志保の夢の中・その１

「大丈夫か？お嬢ちゃん！！」

志保
「お嬢ちゃん・・・？（何言ってんのこの人達・・・私は１８歳よ・・・）」
私は、変な感じがしていた。
「どうしたんだ、その頭のケガ？」
志保
「ケガ・・・？（あれ？私、ケガなんかしてたっけ？）」
そう思いながら、私は頭を触ってみた。
志保
「イタタ・・・」
確かに・・・痛くて、血が出ている・・・
志保
「な、なんで・・・？」
私は、まさか・・・と思った。
・・・と、次の瞬間、私の体がフワッと持ち上がった。
志保
「キャ！」
私は、警備員らしき人に体を持ち上げられ、そのまま医務室らしき所に運ばれた。

医務室で、私はさっそく鏡をのぞいてみた。

志保
「え！？（か、体が・・・縮んでる！？）」

予感的中。

私の体は、あの時と同じように小さくなっていたのだ！！

志保
「（・・・という事は、イヤな予感が・・・）」

「しかたない・・・とりあえず本部に連絡して、警察の託児所に預けるか・・・」

志保
「（やっぱり～！！）」

私は、窓から飛び出し、逃げ出した。

志保
「冗談じゃない！！そんな所に預けられてたまるもんですか！！」

私は、全力で逃げた。

志保
「ハアハアハアハア・・・疲れた・・・」

私は、トボトボと歩いていた。

志保
「どうしよう・・・行く所がないよ・・・あ、そうだわ！」

私は、まっすぐ新一君の家に向かった。

そこなら、この謎が解けるかもしれない！！

志保
「ハア・・・ハア・・・も、もう・・・ダメ・・・」

私はなんとか、工藤邸にたどり着いたが、力尽きて気絶してしまった・・・。

ＡＣＴ０３：志保の場合・２

志保の夢の中・その２

志保
「う～ん・・・」

頭がクラクラする中、私はやっと目が覚めた。

志保
「ここは・・・どこ？」

私は、ゆっくりと起き上がり、自分の体を見た。

志保
「やっぱり、縮んだままだわ・・・」

私は、辺りを見渡してみる。

志保
「それにしても、どうして私こんな所にいるの？」

「気がついたようじゃな・・・」

志保
「あ、あなたは誰？まさか、誘拐犯！？」

阿笠
「そうじゃよ、君を人質にして親から身代金を・・・って、ちがうわい！！ワシは阿笠博士、この辺じゃ有名な科学者じゃよ！！」

志保
「阿笠博士・・・でも、どうしてあなた私の事がわかるの？」

阿笠
「簡単じゃよ。君が今いるこの世界は、君の夢の中の世界・・・俗にいう『パラレルワールド』なんじゃからな・・・」

志保
「パラレルワールド？」

阿笠
「そうじゃよ。君は新一君の事をもっと知りたいと思ったのではないかね？」

志保
「そうだけど・・・」

阿笠
「その君の思いが、この世界に飛んだというワケじゃよ。今、君は、新一君の立場になっておる・・・高校生探偵の立場にのう・・・」

志保
「じゃあ、新一君の方は私の立場になってるって事？」

阿笠
「そういう事になるのう。」

志保
「じゃあ、私の偽名ももう決まってるのね・・・」

阿笠
「イヤ、まだ決まってはおらぬぞ。偽名は、君自身が考える事になるのじゃ。」

志保
「そう、じゃあ・・・江戸川愛にするわ。」

私はあえて、江戸川という名字を選んだ。

それは、コナンの事を思い出せるためだろう。

阿笠
「じゃあ、転校手続きはしておくからの。」

志保
「あ、ありがと・・・」

それから志保は江戸川愛として、帝丹小学校に転校した。

名前が愛なので、コナンの時のように笑われる事はなかった。

学校が終わると、男女の3人組が愛に話しかけてきた。

吉田歩紀（よしだあゆき）
「ボク、吉田歩紀！」
円谷光美（つぶらやみつみ）
「私は円谷光美です！」
小嶋元子（こじまもとこ）
「アタシは小嶋元子！よろしくな！」

愛
「アタシは江戸川愛よ。ヨロシクね、歩紀君、光美ちゃん、元子ちゃん！」

志保は、すぐに3人の名前になれた。あまりにも、元の世界の3人組と名前が似ていたためである。

歩紀
「ねえ愛ちゃん、少年探偵団に入らない？」

愛
「少年探偵団・・・」

愛は、パラレルワールドは元の世界とは少しちがう事に気づいた。
こっちの世界では、すでに少年探偵団が結成されていたのだ。
愛は、すぐに承諾し、少年探偵団は4人となった。

ＡＣＴ０４：新一の場合・２

新一の夢の中・その２

新一
「ここが、工藤邸・・・」

シェリーこと宮野新一は、捜査員と共に工藤邸に入り込んだ。

新一
「何もないね・・・」

「ええ、辺りはホコリだけであります・・・」

新一
「これ以上は何もなさそうだね。引き上げるよ。」

それから１ヶ月後、２度目の調査が始まった。

新一
「相変わらずホコリだらけだね・・・何も変わってないじゃないか・・・」

新一は、もう志保が死んでしまっているのではないかと思った。

しかし、次の瞬間、新一はある違和感に気づいた。

新一

「ん？（洋服ダンスの様子が、おかしい・・・？）」

「どうしました、シェリー？」

新一

「なんでもないよ、君達は先に出ておいて。」

「わかりました。」

新一は洋服ダンスを開けてみて、次の瞬間、フッと笑った。

新一

「（なくなっている・・・１ヶ月前にはあったはずの、彼女の子供の頃の服だけが全部・・・）」

組織に戻った新一は、組織のパソコンに入っている、ＡＰＴＸ４８６９の被験者データベースを開いた。

カタカタカタ・・・

カシャッ！

ピピピ・・・

『被験者データ・工藤志保　Ｋｕｄｏｕ　Ｓｈｉｈｏ・・・生死不明』

新一

「彼女は非常に興味深い素材だ・・・組織に引き渡したりしてたまるものか・・・」

新一は、工藤志保の『生死不明』のデータを、『死亡確認』に書き換えた。

新一

「感謝してくれよ・・・工藤志保ちゃん・・・」

新一

「ごめん、お兄ちゃん！待った？」

宮野明人

「遅いよ、新一！！」

今日新一は、兄である宮野明人と待ち合わせをしていた。

新一

「江戸川愛？」

明人
「ほら、この前話したメガネの男の子だよ。ほらぁ・・・オマエも何か用事があって、米花町の誰かの家に行ったって言ってただろ？」

新一
「ああ、工藤志保・・・」

明人
「そうそう、その近くの探偵事務所の子だよ・・・なーんか変わってるんだよね、子供のくせに妙に落ち着いているっていうか、大人っぽいっていうか・・・」

新一
「それよりお兄ちゃん、大丈夫？なんかヤバい事になってるって言ってたけど・・・」

明人
「心配しないで、うまくいってるから・・・心配なのは新一、オマエの方だよ！いい加減薬なんか作ってないで、恋人の1人でも作りなさいって！！お兄ちゃんは大丈夫だから！！！」

新一
「う、うん・・・」

組織の自室に戻った新一は、昼間明人に言われた事を思い出していた。

新一

「恋人か・・・オレの好きな人って、誰なんだろうな・・・」

それからしばらくして、黒の組織による１０億円強奪事件が起きた。

ＡＣＴ０５：志保の場合・３

それからしばらくして、黒の組織による１０億円強奪事件が起きた。

正美こと明人は、スキをついて愛からカギを奪い取った。

愛
「行っちゃダメ、正美さん・・・行ったら・・・殺される・・・」

正美
「ありがとう・・・愛ちゃん・・・」

正美は、指定の場所に来ていた。

正美
「どこにいるの？出てきなさい！！」

すると、ジンとウォッカが現れた。

ジン
「待たせたわね、白石正美・・・イヤ、宮野明人よ・・・」

明人
「１つ聞かせてくれるかな？なんであの２人を殺したの？」

ジン
「フッ・・・それが組織のやり方よ・・・」

愛はターボエンジン付きスケボーで、米花町を駆け抜けていた。

ジン
「さあ、金を渡してもらいましょうか。」

明人
「ここにはないよ！ある所に預けてあるんだ。」

ウォッカ
「なにぃ！？」

明人
「その前に弟だ！！約束したはずだよ！この仕事が終わったら、オレと弟を組織から抜けさせてくれるって！！あの子をここに連れてくれれば、金のありかを教えるよ・・・」

ジン
「フッ・・・ソイツはできない相談だわ・・・あの子は組織の中でも、有数の頭脳だからねぇ・・・」

明人
「な！？」

ジン
「あの子はあなたとちがって、組織に必要な人間なのよ・・・」

明人
「じゃあ、オマエ達最初から・・・」

ジャカ!!

ジン
「最後のチャンスよ・・・金のありかを言いなさい・・・」

明人
「甘いな・・・オレを殺せば、永遠にわからなくなるよ・・・」

ジン
「甘いのはあなたの方よ・・・だいたいの見当はついている・・・
それに言ったでしょ?最後のチャンスだと・・・」

パシュッ!!

愛は、大きな銃声を聞いた。

愛
「銃声・・・ま、正美さん!!」

愛が駆けつけた時、正美はすでに血まみれだった。

愛
「正美さん・・・」

正美
「あ、愛ちゃん・・・」

愛
「大丈夫ですか!?すぐに救急車を呼びますから!!」

正美
「ムリだよ・・・もう、手遅れだ・・・」

愛
「そ、そんな・・・」

正美
「最後にボクのいう事、聞いてくれる・・・？１０億円の入ったスーツケースは、ホテルのフロントに預けてあるんだ。それを・・・ヤツらより先に、取り戻してほしいんだ・・・もうヤツらに利用されるのは、ゴメンだから・・・頼んだよ・・・小さい可憐な探偵さ・・・ん・・・」

パタ・・・

愛
「正美さ・・・ん・・・うっ・・・うぅっ・・・」

愛は泣きながら、電話をかけた。

愛

「もしもし・・・捜査一課の目暮警部をお願いします・・・」

ＡＣＴ０６：新一の場合・３

新一
「お兄ちゃんが死んだって、どういう事？ジン・・・」

新一は、ジン、ウォッカと向き合っていた。

ジン
「そ、それは・・・」

ウォッカ
「取り引き現場に敵対組織のヤツらがいて、ソイツらにやられちゃったんですよ、シェリー・・・」

新一
「ウソつかないで！お兄ちゃんはそんなヤワじゃない！オマエ達が殺したんだろ！！」

ジン
「もし、そうだったら・・・どうするの？」

新一
「オマエ達が正式な回答をくれるまで、ＡＰＴＸ４８６９の研究は中断する！！」

ウォッカ
「な、何！？」

新一

「答えてくれたら、すぐにでも研究を再開してあげるよ。」

ジン

「フン、甘いわね、あなたも・・・」

ジンはそう言うと、新一の腹に拳を入れた。

ドスッ！！

新一

「うっ・・・」

新一は気絶した。

しばらくたって新一が目を覚ますと、左手に手錠をかけられ、一室に閉じ込められていた。

新一

「ん・・・」

ジン

「お目覚めはいかが？シェリー。」

新一

「最悪だよ・・・」

ジン

「あなたが研究を再開するのなら、すぐに出してあげる。だけど再

開しなければ、このガス室のガスで死ぬ事になるわ。」

ウォッカ
「まぁ、じっくり考えてくださいよ・・・」

そう言うと、ジンとウォッカは出ていった。

「ウォッカ、シェリーをあのまま閉じ込めてるだけでいいのか？」

ウォッカ
「あ、ベルモット・・・いいんじゃないですか？姉貴の好きにさせといて・・・それに、ジンはシェリーの事が好きなんですから・・・」

ベルモット
「チッ・・・シェリーめ・・・」

ベルモットは歯ぎしりした。

新一
「く・・・どうする・・・？このまま研究を再開しなければ、ガス室の毒でオレは死ぬ・・・でも、たとえ薬を完成させられたとしても、無事でいられる保証はない・・・」

新一は考えた。

新一
「仕方ない・・・この薬を使おう。」
そう言って新一が取り出したのは、ＡＰＴＸ４８６９だった。
新一
「どうせ死ぬのなら、これで死ぬ・・・」
そう言って、新一は薬を飲み込んだ。
ドクン！！
新一
「うっ！！」
ドクン、ドクン、ドクン、ドクン、ドクン！！
新一
「うあああああぁぁぁぁぁぁ～っ！！！」
次の瞬間、新一の体はみるみるうちに縮みだし、左手が手枷からスポッと抜けた。
新一
「ハァハァ、ハァハァ・・・」
新一はダストシュートまで張っていくと、ダストシュートの中に飛び込んだ。
こうして、宮野新一ことシェリーは、黒の組織から脱出したのだっ

た。

ACTfinal：踏み出せ、最後の一歩

それからしばらく月日が経って、幼児化した工藤志保こと江戸川愛と、幼児化した宮野新一こと哀原麻衣は出会った。

初めは皮肉を飛ばし合いながらも、徐々に関係を深めていった2人。

2人は、この平和な日々がいつまでも続けばいいと思っていた。

しかし、そううまくはいかなかった。

数ヶ月後、ついに黒の組織に見つかってしまったのだ。

愛と麻衣はジン達に捕らえられ、組織のアジトに監禁されてしまった。

そして、組織との最終決戦が幕を開けたのだ。

何ヶ月にもおよぶ勝負の末、ようやく決着はついた。

ジン、ウォッカが死亡し、ベルモットは寝返った後逮捕された。

この戦いで、愛と麻衣は大切な人を失った。

その人とは、毛利剣（もうり つるぎ）。

志保の幼なじみであり、大切な人だった。

彼はジンと1対1で戦い、相討ちとなって命を落としたのだ。

２人は泣いた。

何日も泣いた。

涙がかれるまで泣き続けた。

やっと泣き止んだ後、２人は彼の分まで生きていこうと決めた。

そして抱き合いキスを交わした時、２人の体は光に包まれて消え去った・・・

新一・志保

「・・・夢・・・」

新一と志保は、ソファーから起き上がった。

新一

「そうか・・・志保の事を知りたいって思ったから、逆の立場になったんだ・・・」

志保

「あれは私達が見た、一種の夢だったのね・・・」

そして志保は、新一の方を向いた。

志保
「ねぇ、新一君。」

新一
「なんだ、志保。」

志保
「蘭さんはもう戻ってこない・・・でも彼女、死ぬ間際に言ったよね？『私の分まで、幸せに生きて』って・・・」

新一
「ああ、そうだったな。」

志保
「ねぇ新一君、私達これから先も生きていこう。何があっても絶対にくじけずに、どんな事があっても必ず2人で乗り越えていこう。そして、蘭さんの分まで幸せになろう。」

新一
「ああ、絶対に幸せになろうな。」

こうして新一と志保は1ヶ月後、無事に結婚する事になる・・・

『逆の立場』は、一歩踏み出せない2人に天国の蘭が見せた、勇気を出させる夢だったのかもしれない・・・

逆の立場　完。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9847a/

逆の立場

2010年10月12日01時24分発行